

JTの森 重富 森林保全活動及び自然観察会

活動を行う団体

J T（鹿児島県森林組合連合会、始良市教育委員会、地元専門家と連携）

活動の実施場所

J Tの森 重富（JT 社有林、鹿児島県始良市、霧島錦江湾国立公園内）

活動の概要

JTでは、樟脳の原料となるクスノキの試験林として約70年前に取得した社有林「JTの森重富」を活用し、森林に触れ、自然環境保全の意識を高められるような森林保全活動に取り組んでいます。

JTの森 重富は、桜島や重富干潟を望む始良カルデラの崖上にあり、クスノキやスダジイ、タブノキなど多様な木々や、アオゲラ、イノシシ、タヌキなどいろいろな生き物が暮らす豊かな森です。JTは自然環境を守りながら国立公園として利用できるよう、社員ボランティアによる森林保全活動と、一般を対象とした「重富の森と錦江湾連続セミナー」を実施しています。

社員ボランティアの森林保全活動は年1～2回開催され、樹名板の設置や歩道等の国立公園の施設整備、生態系フィールド調査や社有林の歴史講座を実施し、森林保全やボランティア活動の意義を考える機会としています。一般向けの連続セミナーでは、自然と歴史をテーマに地元の専門家とフィールドを歩きながら学ぶ講座を開催しています。



「JTの森 重富」の森林内で、クスノキの葉の葉脈や細かい形態を観察する参加者



薩摩藩の自然資源の活用や持続的に利用するための知恵を「薩摩こんしえるじゅ。」がナビゲート

「クスノキと樟脳」では、薩摩と樟脳の歴史に加え、樟脳の原料“クスノキ”の葉の観察や樟脳抽出実験通じて植物への理解を深めました。「薩摩の近代化と森が果たした役割」では、島津家が興した日本最初の洋式産業群「集成館事業」を例に、薩摩藩における殖産を支えた自然資源についてフィールドワークを通じて学びました。

プログラムの実施にあたっては、鹿児島県森林組合連合会をはじめ、始良市教育委員会、鹿児島県内の大学の先生方など専門家に、安全に配慮しつつ、自然情報や観察ポイント、国立公園の見所を解説いただいています。



身近な植物の民俗的利用をテーマに、地域の風習や生活を切り口に植物の特徴や利用の仕方について学ぶ参加者